

農林水産大臣賞

A. 女性地域社会参画部門



小学校で食育活動をする久保さん

久保 八百子 群馬県嬭恋村

仲間と共にパワー全開「村を元気に！自分たちも元気に！」

平成9年の村主催の講座受講をきっかけに、地域における女性農業リーダーとして活躍を始める。村で初の女性農業委員として議会推薦により3期務め、4期以降は実績が認められ公選によって選出。家族経営協定推進や女性農業委員への更なる女性登用等女性の社会参画の推進に取り組む。さらに県農村生活アドバイザー協議会会長、ぐんま農村女性会議会長なども歴任し、男女共同参画社会の構築に貢献した。公職活動だけでなく、地域の女性農業者の自主的組織「おちょんきねっと」等でも代表を務め、村のPR活動、食農教育、地域振興に尽力。



仲良し夫婦、牛舎にて

浦 久美子 石川県白山市

自ら発信し、継続する農業へ

地域の「ふれあい市」の推進委員として出品の勧誘や宣伝に奔走し、また直売所の運営支援にも積極的に取り組み、地域の活性化に貢献。各種協議会や団体の長にも就任し、「女性が自ら発言し行動する」ことを提案、組織活動を通じて女性の経営・社会参画啓発に取り組む。他の女性団体と連携してJA理事や農業委員の登用への働きかけを行い、女性農業者の社会的地位の向上に取り組み続けた結果、平成20年には市で初めて2名の女性農業委員を誕生させるなど女性の意思決定の場への参画の牽引役となっている。

B. 女性起業・経営参画部門



自慢の浅漬け丁寧まごころこめて作ります

明神農産加工組合 栃木県日光市

長続きのコツは緩やかなつながり～のれん分けでグループ起業から個別起業へ～

県内起業第1号として設立。設立当初から24年を経過してもなお、女性起業の先駆者として評価。仕入れや渉外、配送を共同で行い、多忙な時は労働力を融通しあうなど、協力体制を構築しながら製造・販売は個別に行って独立採算制をとる「のれん分け」方式で運営しており、組合員の意欲を高めながら活動を行っている。発足時から地産地消をモットーに地元のJA直売所での販売等により、地域活性化に尽力。さらに食育活動、伝統料理の伝承、商店街活性化に向けての地域間交流など、地域との結びつきが強く、地域活性化に貢献している。



下島夫妻

下島 和子 愛知県碧南市

夢そして感動を与える“農家れすとらん「葉菜の舎」”で地産地消・地域活性化の実現

昭和53年から養豚経営に取り組み、豚肉の直接販売で生産者と消費者の顔の見える関係を構築。平成元年には、法人化し豚肉加工部門を立ち上げ。単身ドイツに渡って本場のハム・ソーセージ加工技術を学び、ドイツの機械を購入するなど、最高のものづくりに取り組んできた。さらに平成19年に農家レストランを立ち上げ、味のみならず接客・社員教育にも力を注ぐ。さらに手づくりソーセージの体験講座の講師も引き受け、延べ5,000名余りの受講生を指導して来た。小中学校の給食にも使われるようになり、学校給食への地元食材活用の推進も図っている。

C. シニア起業・地域活性化部門



若あゆグループの仲間たち

呂橋 裕恵 兵庫県新温泉町

食と私の人生

昭和61年から26年にわたり活動を継続。農産加工グループ等3つの女性グループを設立し、延べ60人の仲間と共に安全安心な食の実践に取り組む女性を増やしている。また、グループ活動における後継者育成、郷土食の普及啓発と学校などにおける食育活動の推進などを行ってきた。さらに地域の温泉旅館の女将グループとの連携のもとに、地域農産物の活用や、農作業体験などの農村資源を活用した地域おこしにも取り組み、さらに地域農産物を活用した特産物の開発にも取り組んで、農村における活動に顕著な功績をもつ。



作業を終えた直後のかも寿会のみなさん

かも寿会 岡山県津山市 シニアパワーで育てたもち米が山陰の銘菓に

平均年齢 72 歳。減農薬・減化学肥料、架干しを行うことで、高品質、安全に配慮したもち米を栽培し、菓子会社への契約販売を行って高単価を実現。稲作情報を年 4 回発信するとともに、契約先の菓子会社との交流を行い、田植えや収穫など年 4～5 回菓子会社の社員に農作業の手伝いをして貰い、菓子会社に地域や栽培をして貰う取り組みを実施。契約は 14 年間に及び菓子会社の信頼も高い。この活動には地元営農組合も協力しており、高齢者の活動として、認知されている。定年退職者が新たに会員になるなど高齢者活動のモデルとなっている。

*** 平成 23 年度 農山漁村男女共同参画優良活動表彰 ***

農林水産大臣賞

次世代を担う若手地域リーダー部門

経営参画部門



「美味しい卵で豊かな食卓を」の気持ちをかめ、卵屋の直売店・食堂を切り盛りする智子さん

熊野 智子 愛媛県四国中央市

「熊野養鶏」の後継者である夫と結婚して就業。当初は、自動販売機による直売の管理を受け継ぐが、栄養士の資格を活かして加工品の試作・研究に取り組み、塩味卵、燻製卵を商品化。平成 19 年念願の直売所に着手して卵販売店舗を併設した「農家食堂」卵かけご飯の店「熊福」をオープン、店長として経営を任されるようになった。店長としての仕事に加え、新商品の開発も担い、様々な加工品を商品化している。畜産農家女性のネットワーク「めぐり愛*媛ネットワーク」副会長や、「全国畜産縦断いきいきネットワーク」理事を務め、リーダーシップを発揮している。

地域参画部門



経営者、農業委員として奮闘中

矢走 恵美子 宮城県大崎市

平成 9 年就農。30 代で認定農業者となり、平成 21 年には実父から経営移譲を受け、経営主となった。その経営規模は県内有数で、作業日誌の記帳と経理管理により安定した農業所得を確保している。平成 20 年に 30 代の若さで農業委員に立候補し、公選で初当選し、現在 2 期目を努めている。平成 21 年には宮城県青年農業者となる。JA 女性部の仲間とともに、地元小中学校における食育活動に取り組むとともに、農業委員として、遊休地解消に向けて取り組んでいる。農業委員や認定農業者への女性参画の必要性を折に触れ発言し、女性の社会参画推進に寄与している。

組織における女性登用部門



食農教育推進委員会審査会の協議

秋田県横手市農業委員会 秋田県横手市 (農業委員会)

横手市では、平成 14 年には 13 名の女性農業委員が選任され、女性農業委員の登用に対する意識が高まっていたが、市町村合併により女性農業委員の登用の門戸が狭まったため、平成 19 年の改選では、女性農業委員は 2 名となった。そこで、女性農業委員拡大に向けて市、市議会に要請した結果、議会推薦の選任委員 4 名はすべて女性農業委員となり、選挙委員 1 名をあわせて 5 名に女性農業委員が選任され、女性の割合が 4.2% (平成 20 年度) から 10.4% (平成 22 年度) に増加している。



百貨店において農業・加工品の PR

吉岡 敏子 兵庫県稲美町 (女性組織 (生活研究グループ))

稲美町町議会議員 16 年、議長歴 2 回、農業委員 1 期を務め、さらに兵庫県 JA 女性会会長、東はりま生活研究連絡協議会会長も務める。稲美町議会議長を務めた折には、女性農業委員の登用を訴え、平成 22 年度から稲美町で 3 名 (うち生活研究グループ員 2 名) の女性農業委員が誕生している。農協理事については吉岡氏の訴えにより、平成 21 年に JA 兵庫南で「経営改革総合審議会」が発足し、7 名の委員のうち吉岡氏が女性委員として活躍し、女性登用を強く訴え、平成 24 年度から女性理事を 2 名以上にすることを定款で定め、女性登用実現への一歩が踏み出された。

農林水産副大臣賞

次世代を担う若手地域リーダー部門

経営参画部門



他産地での夏枝管理に関する技術指導

朝倉 雪 福井県あわら市

子育て中の主婦であったが、平成8年、母の急逝を機に農業経営を引き継ぐ。母の味を越える梨を作りたいと、地域の女性農業者と梨の栽培学習グループを立ち上げ、技術の習得に取り組んだ。ヨーロッパへの農業研修視察、大型特殊自動車免許の取得等を行い、平成13年に認定農業者、14年にエコファーマー認定など地域で認められてきた。ヒット数47万を超える人気サイトのホームページを有しており、梨のほとんどが注文販売である。平成16年には、あわら市で女性として2人目の農業委員となるとともに、担い手女性グループ組織「花野米レディース」の会長としても活躍している。



役割分担をしても、全ての役割を、ともに担えるパートナーシップ経営をめざしています

福島 裕子 鹿児島県喜界町

結婚を機に、夫が経営していた畜産、サトウキビを手伝うようになったが、複合経営に限界を感じ、平成9年から畜産専門の経営とし、これを機に家族経営協定を締結した。家畜導入事業等の利用による規模拡大、環境保全型農業の促進、パソコンを活用した農業簿記帳とその結果をもとにした経営診断、経営全般に夫婦で担う体制などを実践して経営の向上に努める。和牛改良組合婦人部の役員としても畜産農家のリーダー的役割を果たし、他の畜産農家への助言を行い、後輩のよき相談役として後継者育成に努めている。

地域参画部門



大漁旗で観光客を出迎え！
(左が蛸子さん)

蛸子 良子 青森県大間町

平成元年、結婚を機に昆布漁の手伝いをする。平成18年「生活改善グループ大間風（やませ）」を結成して会長に就任、空き店舗となっていた漁協の直売施設で「浜のチャレンジ市」を運営母体として開催。集客のために、グループのメンバーで観光部門「おおまエスコートクラブ」を立ち上げ、大手旅行社に企画を持ち込み、現在15社と契約して延べ1万6千人を超える観光客をガイドした。はまなすミックスジャムの商品化、マグロの振る舞い料理の冷凍パック販売、レトルト加工品「大間風まぐるシチュウ」の商品化の成功など、漁業の厳しい現状を背景に、大間町の水産物に付加価値をつけて地域へ利益還元することに常に配慮した活動を展開している。



農業まつりでの販売
(右が川崎さん)

川崎 恵子 佐賀県白石町

平成8年より実家の農業経営に実母とともに取り組む。就農直後からJA女性部活動に参加し、平成12年JA白石地区福富支所女性部フレッシュミセス部会会長、平成14年に白石地区女性部フレッシュミセス部会副会長を歴任、平成18年にはJA白石地区玉ねぎ部会で男性ばかりの中での女性役員となる。また平成20年には農業委員となり、現在2期目を務める。実母、のちに従姉妹を含めた「女性だけでできる農業」を目指し、女性経営者として、創意工夫で作業環境を整えてきた。白石町男女共同参画みらいネットの会設立に参加し、監事として男女共同参画社会への啓発活動にも取り組む。

組織における女性登用部門



女性農業委員の登用要請

石本 和子 山口県山口市

(農業委員会)

石本氏は女性農業委員として女性認定農業者制度の活用促進、家族経営協定の推進、農業委員への女性登用の推進に取り組み、山口市の女性認定農業者は14人に、家族経営協定の締結数は22件に増加した。平成21年3月、女性農業委員の県域組織「やまぐち女性農業委員の会」の設立に携わり、同会の初代会長となった。同会で女性農業委員がいない市町長および議会に女性登用を要望した結果、平成23年7月女性が一人も登用されていなかった3市町で複数の女性農業委員が誕生し、山口県では全国で初めてすべての農業委員会において女性が登用された。



初の女性組合員セミナーを開催

さつま日置農業協同組合・JAさつま日置女性部会

鹿児島県日置市（農業協同組合）

さつま日置農業協同組合とJAさつま日置女性部会が一体となって、女性の参画を促進している。女性登用に当たって①女性の正組合員加入促進②女性総代への登用③女性理事の増員の3つの柱を設定し、それぞれに具体的な数値目標を掲げての取り組みを展開した。その結果、女性正組合員の割合が大きく増え、また平成23年5月の総代改選において総代550名中65名が女性となり、割合が11.8%となった。また女性理事は平成23年5月の総代会にて理事18名中、女性理事2名が就任（同11.1%）している。

農林水産大臣政務官賞

次世代を担う若手地域リーダー部門

経営参画部門



ジェラート工房にて

布瀬 智子 栃木県益子町

酪農を営む柳牧場の三女として生まれる。加工部門に取り組み、平成18年、益子観光いちご団地内に「ジェラートショップ ストロベリーフィールズ」を開店し、19歳で経営者としてのスタートを切る。苺のジェラートから始まり、日本中の果実を使用したジェラートの商品開発に取り組み、道の駅、ホテルなどへの業務卸販売等、商品の種類の増加や販路拡大を図る。平成17年柳牧場の法人化により、取締役就任して現在は(有)柳牧場ジェラート事業部を任せ、加工施設を移転させて将来的には独立企業を目指している。地域農産物のPRに貢献するとともに、女性起業活動の支援も積極的に行っている。



積極的に販売活動中の美穂子さん

鈴木 美穂子 埼玉県本庄市

平成12年、夫の実家がある本庄市で夫婦2人で新規参入して就業。農業研修をしながら畑や機械を借用して経営をスタートさせた。平成16年に家族経営協定を締結して役割分担、給料、休日等を明確にし、夫が生産、鈴木氏が販売を担うこととした。産直団体のイベント・交渉・営業などへの積極的参加、情報の還元のためのレポート提出などに取り組んだ結果、経営規模は5倍となった。また出荷団体青年部長を務めるなど、若手女性農業者リーダーとしての活動も行っている。

地域参画部門



児童への食育活動（「海の子、山の子、畑の子」にて甘エビのむき方を解説）

嶋崎 啓子 石川県金沢市

昭和63年の結婚を機に、(有)嶋崎漁業の家業（底びき網漁）を手伝う。石川県漁協女性部金沢港支部に所属して鮮魚や加工品の販売活動を継続的に行うとともに、市内小学生を対象とした「海の子・山の子・畑の子」という交流会を開催し、体験学習の提供に積極的に関わっている。また地元公民館での料理教室で、食育活動にも取り組み、魚食普及に寄与している。平成19年には石川県漁協女性部金沢港支部長、平成21年には石川県漁協女性部副部長に就任し、加賀地域の各支部のとりまとめ役として環境保全活動の推進にも取り組んでいる。



魚食普及イベント・カンパチの解体ショーにて（手前が田村さん）

田村 三千代 鹿児島県鹿屋市

平成6年に大手コンピュータ会社を退職し、父親が営む(有)光洋丸に入社。平成16年カンパチ養殖の値が下がり経営が悪化したことを受け、経営改善に着手する。カンパチを小分けにする加工場兼販売所を建設して直接販売を開始し、営業のローラー作戦を行った。同時にカンパチ宅配や、移動販売許可を取得して出張販売を開始するとともに、前職を活かしてホームページを開設し、PR活動にも取り組む。こうした取り組みにより高い平均単価の取引を実現した。さらに女性漁業者と販売促進を目的とした「海江'S(うみえず)」を結成、「一日食堂」をオープンするなど、魚食普及とカンパチのPRに努めている。

組織における女性登用部門



直売所に加工品を出荷中の横田さん

横田 友 埼玉県秩父市 (女性組織 (女性農業委員会組織))

平成 14 年に認定農業者に認定され、平成 16 年には秩父市初の女性農業委員となった。農業委員として女性農業委員の登用拡大に向け働きかけるとともに、平成 19 年には県の女性農業委員協議会の設立に尽力し、現在会長として活躍している。さらに 21 年には遊休農地解消のため緑肥作物の栽培や土づくりを実施し、また平成 20 年からは、地元栃谷で栃谷ふるさとづくりの会事務局長として景観形成や都市住民との交流など遊休地活用に取り組んでいる。



女性役職登用促進要請活動の様子

瀬長 澄子 沖縄県豊見城市 (農業協同組合)

平成 22 年に地域代表として JA の経営管理委員となり、店舗運営や品質・技術向上に提言を行っている。また平成 12～16 年まで JA おきなわ女性部の会長を務め、女性正会員の増加に尽力 (平成 14 年→平成 22 年で 356 名増加)。JA 総代を平成 14 年～現在まで務め、JA 各支店を回って女性総代を増やすよう働きかけた。沖縄県農山漁村女性組織連絡協議会に JA 女性部の代表として組織運営にかかわり、役職を歴任して女性の役職登用活動を推進、その結果、県の女性農業委員が平成 14 年には 57 人 (平成 11 年 30 人) と飛躍的に増加。女性農業委員としても 3 期目を迎え、地産地消活動を推進している。

*** 平成 23 年度 農山漁村女性・シニア活動表彰 ***

農林水産省経営局長賞

A. 女性地域社会参画部門



太郎兵衛もちの加工 (蒸し) 作業

中島 滋代 埼玉県越谷市

越谷市伝統もち米品種「太郎兵衛もち」の作出・維持・確保とブランド化に取り組んで

伝統的な水稲もち米品種「太郎兵衛もち」を復活させ、地域のブランドとして商品化した。またこれをのし餅等に加工して付加価値の高い商品を生み出して経営向上につなげており、6 次産業化の草分け的存在である。知事から「さいたま農村女性アドバイザー」の認定をいち早く受けるとともに、同アドバイザーの県段階組織であるネットワーク設立にも尽力し、設立後は、初代役員に選任され、活躍した。



家族経営協定の講演をする榎原さん

榎原 由紀子 長野県東御市

茜色の 70 代をめざして

自らの家族経営協定締結の経験を活かして、県下各地で協定についての講演などを行い、農業後継者、農業委員などへの啓発を行っている。東御市では、同氏の働きかけにより、平成 20 年から 22 年にかけて 14 名が家族経営協定を締結している。また、同氏の講演をきっかけとして地域での協定に対する取り組みが始まり、指導的立場の農業者にも影響を与えている。さらに食育活動や郷土食講座を担当するとともに農産加工施設の副組合長としても活躍している。市の男女共同参画審議委員としても活躍。



私達の城「BABA 直売所」にて

平原ホタルグループ 愛知県西尾市

ゲンジボタルの舞う美しい地域作りと農産加工を通じた地域交流

荒廃した棚田の地道な整備をきっかけに活動を開始。「平原ゲンジボタルの里保存会」を立ち上げ、25 年余りもホタルの舞う、美しい地域づくりの活動を展開している。「ホタルの里」で開催される各種まつりで活動するとともに、直売所の開設、子どもに食文化の伝統を伝える食育教育の活動にも波及している。平成 15 年にできた技人制度では、同グループから 2 名が認定され、市民講座、病院で指導するなど積極的な地域活動を通じて、地域振興に寄与している。

B. 女性起業・経営参画部門



地元食材拡大料理コンテストで最優秀賞を受賞した自慢の御膳

金森 正子 宮城県丸森町

ひっぽを元気にする農家レストランを目指して

後継者の林業への就業を機に農家レストランを開業。平成14年家族経営協定を締結して、役割分担を明確にした。平成15年には認定農業者となる。レストラン建設については自己資金に加え、農業改良資金の女性起業向け優先枠を活用、県内第1号の資金活用事例として県内に紹介された。レストランでは、食事、農産加工品、直売を提供、地場産品育成組合を設立し、食材供給の安定化を図っている。また地域の高齢者と体験ツアーにも取り組み、地域の中心的存在となっている。



「穂波街道」の厨房で菓子製造

庄司 祐子 山形県鶴岡市

自立への「想い」を形にした農場レストラン経営

一農業・農村を舞台に「自分なりの生き方」を農業経営で実現一

平成8年に農家レストランという新分野に女性として初めて挑戦した県を代表する女性起業家。「レストランを拠点とした農空間を地域につくる」という明確な目標を持って経営発展に取り組んできた。平成17年度「オーライ！ニッポンライフスタイル賞」を受賞、庄内の魅力を広く発信するため地域ネットワークを発足した他、年間を通じて研修生を受け入れるなど人材育成にも取り組み、さらに平成19年からは起業セミナーのメンバーとして起業志向者の指導にあたっている。



邑楽町あいあいセンターの仲間たち

邑楽町農畜産物処理加工施設利用組合（邑楽町あいあいセンター利用組合）

群馬県邑楽町

農村女性の願いと夢の実現をめざして～作り手の「あい」と地域住民の「あい」の出会いを大切に～

平成8年設立。34名の組合員が、加工部、直売部、麺類部に分かれて、きめ細かいサービスを提供している。直売部では、組合員の生産する野菜のほか、町内農家による協議会が組織され、約300人が出荷。栽培研修会を開催し女性の経済的自立や高齢者の生きがい対策に繋がっている。また、地域特産のニガウリを使ったオリジナル商品の開発、学校給食への食材提供、独居老人への弁当宅配サービス、食育活動など地域の農業生産振興に貢献している。

C. シニア起業・地域活性化部門



全国唯一の農協生産部会「**あゐ**」

塩野谷農業協同組合塩谷地区 **あゐ部会** 栃木県塩谷町

あゐづくり35年間、伝統技術継承で地域の活性化を

正月用**あゐ**づくりが全国的にも珍しくJA生産部会の中に位置付けられており、その活動は45年の歴史を持つ。他産地との競争に打ち勝つため、技術向上研修や情報交換を行って品質向上に取り組む。作業を効率的に行うために世代間での役割分担を行うとともに、部会の継続性確保のために、定年退職した人や女性を加え、高齢者の生き甲斐づくりや女性の社会参画にも貢献している。**あゐ**の生産販売が冬場の就業機会の確保や安定した収入の確保につながり、農家の経営安定に寄与している。



ほ場を巡回して生育状況を確認

赤茂野菜組合 岡山県真庭市

元気で楽しく野菜を作ろう

各種事業を活用してハウスを整備してミニトマト、しゅんぎくを栽培しており、安定栽培のために計画的栽培を行っている。JA等関係機関と良好な関係を築きながら、JAの他の組合員から技術面でのサポートや問題発生時の対策等の指導をうけており、さらに組合員同士の交流も図っている。また販路拡大など所得向上を目指す創意工夫もこらし、この組合が実施する栽培形態は周辺農家に波及しており、地域の野菜経営モデルのひとつとなっている。



体験メニュー開発講座で「あんどんづくり」

うちこグリーンツーリズム協会 愛媛県内子町

高齢者がいきいき輝くグリーン・ツーリズム活動

平成16年に設立。農家民宿や体験施設が連携を図って活動を行い、地域の女性や高齢者が自らを生かす場として、農家民宿の運営や体験メニューの企画・提供を推進してきた。農家民宿の運営については協会の小グループ組織である「女性会員の会」が中心となり、地域の高齢者から郷土料理の調理方法等を聞き取り、民宿の看板メニューとして定着し好評を得ている。また小中学生の宿泊体験、海外交流視察団の受け入れも行っている。

林野庁長官賞

(A. 女性地域社会参画部門)



クラフト製作指導する原氏(右端)

原 富美子 岐阜県郡上市

森とのふれあいを地域に広げよう

県林業グループ連絡協議会の副会長、女性部会長として活躍する他、女性森林所有者代表として「郡上市森林づくり推進会議」委員を委嘱されている。また県の各審議会の委員として女性森林所有者視点からの発言で地域林業振興に尽力している。林業女性グループ「リーフレディース」では、市の教育委員会に働きかけ、小学校の総合学習に森林教室等を組み入れて貰った功績をもつ。里山体験施設の運営などにもおいても幅広く活動し、林業女性の模範となっている。

水産庁長官賞

(A. 女性地域社会参画部門)



海女小屋体験で海女文化を伝えたい!

伊勢志摩海女小屋体験 三重県志摩市

杉から始まった伊勢志摩海女小屋物語—もう一度あなたに会いたくて—

地区の「海女同盟会」有志と引退した海女漁業者が、平成17年より志摩市観光協会との連携のもと、「体験施設」を活用して海女小屋体験を実施している。地元の魚介を活用した郷土料理等でもてなすとともに、アワビ、サザエ等魚介の生態や漁法、地域の歴史、風習、祭りなどに加え、海女漁業の喜びや苦しみなどの海女文化を伝えている。リピーターも増え、観光スポットを持たなかった地区の優良かつ貴重な観光コンテンツとなっている。

全国漁業協同組合連合会長賞

(B. 女性起業・経営参画部門)



ゲタ(シタビラメ)の天日干し風景

四海漁業協同組合女性部 香川県土庄町

海の宝を活かして、さまざまな味を届けます

昭和36年の結成当初より記帳推進等による漁家経営の向上や漁村生活の発展に取り組むとともに、地域の農家、消費者との交流を主体的に展開してきた。継続した活動が男性漁業者や異業種、教育関係者との連携により、食育、地産地消活動の定着をもたらした。漁村女性が中心となった地域情報の発信や、観光業などとの連携による多彩な活動は離島・中山間のモデルケースとなっている。さらに地魚にこだわった加工品の開発を実践、商品化し学校給食への提供、アンテナショップでの販売を行う。

全国農業協同組合中央会長賞

(C. シニア起業・地域活性化部門)



「直売所料理教室で講師として活躍」(写真左)

坂口 千代能 長崎県佐世保市

わが家の生活改善から地域活性化に向けて

JA退職後、生活改善グループや直売所を設立する。地産地消と食の安全・安心のため加工品の原材料にはグループ会員の自家農産物を活用するとともに、加工品には郷土料理を多く取り入れ、料理講習会などで地道に伝え、さらに子ども達にも伝えて食育活動に貢献している。さらに近隣市町村でのイベントへの出店も積極的に行って、地域への貢献度が高い。起業活動においては生活研究グループの活動から加工所、直売所の設置へと女性が活動できる場所を確保・拡大している。